相生山緑地
オアシスの森くらぶ
ニュースレター２４号　2005.5.28発行

発　行　オアシスの森くらぶ
編集委員会
発行人　大　館　　学
編集長　近　藤　　眞　史

定例活動／１月29日(土)
「ツツジの園づくり＆コナラの再生」

眞弓　浩二

１月の定例会は、オアシスの森誕生の原動力とも言える、元祖「柴刈り大会」の流れをくむ「ツツジの園づくり」でした。

毎年、この日は暖かな良い天気に恵まれ、３年前から手がけている南向きの尾根には、飛び入りの参加者も含めて総勢16名が集まりました。

ここ梅林西側尾根筋では、１本も植えることなく、林内照度の改善のみによってツツジの園をつくることを目標にこれまで活動を重ねてきました。３年目になる今年は、徐々にその効果も見え始めてきました。

▲健全で生長力のある多様な森のあり方を説く林進教授（左端）

この日は、講師の林進先生にツツジの開花のメカニズムについてミニレクチャーを受けたあと、ツツジの指標木２本を選び、それぞれ花芽の数を計測しました。この指標木については今後も花芽数の計測を続け、管理の効果が花芽数にどのように影響するかを継続調査していくこととしました。

▲照度改善によるツツジの園づくりに重要な落ち葉かき

▲花芽の計測では２本の指標木に各々467個と367個の花芽を確認

お昼には、これまた恒例となった野浪さん手製のモチをごちそうになり、みんなで楽しい一時を過ごしました。

▲野浪さん特製のモチをオアシスの森特性の竹炭で焼いて食べる。至福の時。

午後は活動エリアを尾根の南西斜面に拡大し、病害虫で衰退傾向が見られたコナラなどの除伐をおこない、萌芽更新による森の再生区域を設けました。ここも健全で生長力のある森づくりの一環として今後保全活動を継続的に行っていくつもりです。

この日の手入れで得られたコナラの幹は、椎茸のホダ木として利用しようと、２月に特別活動として「椎茸の菌打ち」を行うことになりました。森を若返らせるために伐られた木もまた森からの恵みです。小さな試みですが森と人が繋がる営みとして実感できるといいですね。

▲将来の森の主林木をつくる森の再生作業

▲満開時のツツジの園　　（４月初旬撮影:右上の写真とも）

このニュースレターは（財）ニッセイ緑の財団「雑木林の保全・再生」活動研究協力金により作成しています。